

ごみ出し

ごみステーションの使い方

ごみステーションは、家庭から出るごみを収集するために欠かせない大切な場所です。多くの人がルールやマナーを守り、正しく使用しています。

不適切なごみ出しはごみの散乱やカラスによる被害につながり、他の利用者に大きな迷惑を掛けることもあります。

カラスよけサークルや、ごみ飛散防止ネットなどがある場合は、収集までの時間がわずかでも、しっかりとごみを覆うことで、被害を防ぐことができます。

みんなの力で守られる

ごみステーションの環境

ごみステーションを管理しているのは、町内会や、マンションを管理している人などです。地域のために行動している人がいることを忘れず、ごみステーションを気持ちよく使うために協力しましょう。

まずは再確認

うっかりや勘違いをなくすと、ごみステーションはより清潔に保たれます。引き続きご協力をお願いします。

○ごみ出しの時間

収集日の朝、8時30分までにしましょう。

○収集日にご注意を

地域別の「ごみカレンダー」で確認を。

○分別をしっかりと

「ごみ分けガイド」で確認を。



段ボール・新聞・雑誌は地域の**集団資源回収**か**回収拠点**に出してください。4月から「雑がみ」では出せなくなります。

※やむを得ない場合、指定ごみ袋(有料)に入れ「燃やせるごみ」として出すことができます。

【詳細】環境局白石清掃事務所 ☎876-1753

引越しのときに

春は引越しが多い季節。「一度に大量のごみが出る」「収集日以外の日にごみを出したい」という場合は、下記にお問い合わせを。

①自分で処理施設に運ぶ※

【詳細】環境局施設管理課 ☎211-2922

②市の許可する業者に依頼

【詳細】札幌市環境事業公社 ☎219-5353

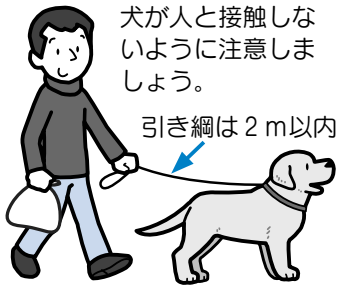


どちらも有料

※ごみの形状などにより処理施設が異なります。事前にご確認ください。

周りの清潔を第一に

ペット



犬が人と接触しないように注意しましょう。

引き綱は2m以内

犬の散歩時には、ふんは必ず持ち帰り、尿はペットボトルなどに入れた消毒薬や水で洗い流すなど、排せつ跡を清潔にしましょう。自宅など飼育場所を清潔にするのも悪臭・病気の予防に大切です。

「外では犬を自由に遊ばせたい」と思う人もいるかもしれませんが、「犬が放し飼いにされていて公園に入れぬ」「かみつかれないか不安」といった声が多く寄せられます。公園や河川敷など公共の場所で放すことは条例にも違反します。

「周囲に人がいないから」という気持ちですが、人にかみつくなどの事故や病気の感染、犬の交通事故を招くことも。飼い主が責任を持って犬を管理し、周りの人を不安にさせないようすることが必要です。

公園などで犬を放さない



飼い猫と野良猫

飼い主が不明の野良猫などを市が受け入れる数は、一年間に千400匹を超えます。

飼い主が分からない猫は、やむを得ず殺処分されることもあります。

飼い猫は、ペットと分かるように首輪を付けるなどして室内で飼育し、病気や事故から守りましょう。

犬が鳴くのは理由が

飼い主には気にならない程度でも、鳴き声を不快に感じる人もいます。

犬が鳴くのは必ず理由があるため、過度に鳴くときは、その原因を突き止め、取り除くことが大切です。

餌やり

野生の鳥への餌やりは…



公園や道路などでハトやカラスなど野生の動物に餌を与えると、

ふんで道路が汚れたり、悪臭などの原因になったりします。「餌をやっている人がいて迷惑している」といった声もあります。野生動物への餌やりはやめましょう。

